

# 岩船地域における「新潟次郎」の多収穫栽培ごよみ



目標の収量構成と品質	
目標収量	720kg/10a
穂数	450本/m <sup>2</sup>
1穂粒数	85粒
m <sup>2</sup> 当り粒数	38,000粒
登熟歩合	85%
千粒重	22.3g

・強稈・多収の極早生品種  
 ・いもち病・紋枯病対策とカメムシ防除は必須です！

栽培のポイント

- (1) 健苗育成 : ①育苗日数は20日程度(加温20日、無加温25日)  
 ②播種は4月15日以降、播種量は乾籾150g/箱  
 \* 転用種子は発芽率がやや低いため、3割程度多く播種する
- (2) 過剰生育防止 : ①1株苗数3~4本植えとし、茎質向上  
 ②栽植密度は茎数早期確保のため60~70株/坪  
 ③基肥窒素量は5~7kg/10a程度  
 ④中干し・溝切りを徹底し、根の健全化と茎質向上
- (3) 登熟向上 : ①1回目の穂肥時期が幼穂形成期であるため、幼穂確認と遅れない穂肥  
 ②出穂前後25日間は飽水管理とし、田面を乾かさず地力窒素の発現を促進  
 ③落水は出穂25日以降とし、登熟向上
- (4) 病虫害防除 : ①いもち病の箱処理剤使用  
 ②いもち病とカメムシ類の同時防除  
 ③紋枯病の発生量に応じた適期防除
- (5) 胴割れ発生防止 : ①刈り遅れしない適期収穫  
 ②刈取水分に応じて乾燥温度を調節
- (6) 土づくり : ①稲わらの秋すき込み  
 ②土づくり肥料や堆肥等有機物の施用

基本は「適正生育量の確保」と「登熟の良い稲づくり」

